

厚生委員会報告資料

令和元年 10月11日

報告事項件名	頁
(1) 地域包括支援センターが実施する介護予防事業の外部委託化について・・・	1

(福 祉 部)

厚生委員会報告資料

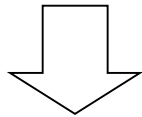
令和元年10月11日

件名	地域包括支援センターが実施する介護予防事業の外部委託化について
所管部課名	福祉部高齢者施策推進室地域包括ケア推進課
内容	<p>区内25か所の地域包括支援センター（以下、「センター」という。）がそれぞれ実施する介護予防事業（包括らくらく教室、介護予防教室）を令和2年度から区が一括してセンター以外の事業者へ外部委託する。</p> <p>1 介護予防事業の外部委託化の目的 地域包括ケアシステムビジョン（以下「ビジョン」という。）に示された、センターの「高齢者支援体制強化・平準化」の視点から実施する。</p> <p>（1）センター間での事業平準化（別紙1の1参照） 教室の開催回数や参加率に各センター間で差が生じていることから、どの地域でも共通の事業提供が行える仕組みとする。</p> <p>（2）高齢者支援体制強化 高齢者人口の増、虐待通報など困難ケースの増などに対応するため、センター業務の軽減を図り、相談業務、訪問、ケース対応などの体制を強化する。</p> <p>ア 介護予防事業の事務軽減（別紙1の2参照） イ センター職員数の適正配置（令和2年度に向け検討中）</p> <p>2 介護予防事業見直しの考え方と見直し案 （1）外部委託化に際しては、ビジョンに示された、予防・生活支援に必要な要素を盛り込み、次の4つの視点から再構築する。</p> <p>ア 介護予防に必要な3要素の定着 これまで以上に「運動」「口腔・栄養」「社会参加」の3要素を重点的に取り入れ定着をはかる。</p> <p>イ 自身の状態を把握 筋力低下など自身の状態に気づき、適切な対応を取るきっかけとする。また、個人で取り組む方へも定期的にアドバイスできる仕組みとする。</p> <p>ウ 自主活動化への誘導 「高齢者の地域での活躍」という視点から、参加者が自主的な活動として継続していく必要性を啓発する内容とする。</p> <p>エ サポーター（リーダー）の発掘・養成 自主的な活動を支援、リードする人材を発掘し養成できる内容を取り入れる。</p>

(2) 見直し案

【現在の実施内容】

教室名	内容
【介護予防教室】 25か所×6回以上 =150回以上実施	センターごとに教室内容を企画 介護予防の必要性が低い方から高い方まで幅広く参加
【包括らくらく教室】 25か所×24回 =600回実施	運動、口腔・栄養を共通内容としてセンターごとに教室内容を企画 介護予防の必要性の高い方が参加



実施内容の地域差を解消

- ・どの地域でも同じ考え方、同じ内容で実施
- ・住まいの地域以外の教室にも参加が可能

【令和2年度からの実施内容】

教室名(仮)	内容
【健康運動アップ教室】 (自主化プログラム) 25か所×10回×2クール =500回実施	運動、口腔・栄養、認知症予防など、総合的に介護予防を学びたい方対象 また、受講後に自主活動化へとつながる内容を盛り込む
【介護予防サポーター (リーダー)養成研修】 5か所×8回×3クール =120回実施	地域で活動する自主活動のサポーター(リーダー)を養成するための研修 介護予防チェックリストで地域活動の運営などに関心のある方などをこの研修へつなげる
【体力測定会】 5か所×12回 =60回実施	自分の体力の状態を確認できる項目を測定。 定期的を開催し、自身の取り組みが適正かどうかを確認する 地域で自主活動として介護予防に取り組む方や、個人で取り組む方も参加していただき、専門職から定期的なアドバイスを行なう

上記の他、令和2年度から「はじめてのらくらく教室」の回数増(396回 600回)を検討中

3 外部委託化の方法とスケジュール

受託事業者はプロポーザル選定により決定する。

また、令和2年度当初から教室が開催できるよう、今年度中に受託事業者を決定し契約する。

【スケジュール】

令和元年10月 プロポーザル契約公募開始

2年 1月 事業者決定、契約締結、準備事業開始

4月 事業開始

問題点
今後の方針

令和2年度からの実施に向けて、プロポーザル契約に向けた準備事務、センターの体制整備などを適切に進めていく。

介護予防事業 外部委託化 資料

1 平成30年度の地域包括支援センターでの開催状況

(1) 介護予防教室

	介護予防教室			介護予防教室の主な内容
	開催回数	参加者数 (のべ数)	圏域内高齢 者参加率	
Aセンター	47回	572人	12.3%	(運動系) ヨガ教室、健康卓球、ストレッチとリズム体操、 体力測定会、ウォーキング教室 (趣味系) ダーツ教室、大人の塗り絵 (知識系) 老い支度教室、認知症予防教室
Bセンター	23回	1,097人	24.2%	
Cセンター	34回	903人	11.1%	
Dセンター	24回	621人	5.3%	

AセンターとBセンターでは開催回数に2倍以上の開きがある

(2) 包括らくらく教室(内容と開催回数は各センターほぼ同一)

	包括らくらく教室		
	開催回数	参加者数 (のべ数)	圏域内高齢 者参加率
Eセンター	24回	257人	7.8%
Fセンター	24回	250人	5.5%
Gセンター	22回	123人	1.5%
Hセンター	24回	288人	2.5%

EセンターとGセンターでは参加率に5倍以上の開きがある

【開きのある要因として考えられること】

- ・各センターの事業執行体制(職員・事務量の配分) 実施回数やPR活動の差
- ・ " の事業に対する考え方 「広く薄く」か「狭く濃く」か
- ・ " の会場確保(会場の広さ) 会場の受入れ人数、会場確保の容易さの差

2 介護予防事業にかかる事務軽減の量(平均的なセンターの例)

教室名	事務内容	現在の作業量
包括らくらく教室	事業企画 講師打診 講師打合せ 事業周知	224時間
介護予防教室	参加者募集 当日従事 謝礼支払等 事務	364時間
計		588時間

委託により軽減された作業量(588時間)を訪問事業や相談事業へシフト

早期発見・早期対応
健康寿命の延伸